

(款) 55教育費 (項) 15中学校費 (目) 5学校管理費

◎中学校一般の経費

中学校運営事業

【 教育総務課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

学校教育:子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち

【事業の目的】

対象 市立中学校の生徒等

意図 安定した学校運営を支援するため。

効果 質の高い公教育の実施を図る。

【事業の内容】

(1) 中学校運営事業

- ・中学校9校の授業、行事等の学校生活に必要な物品、役務の調達などにより、中学校運営の充実を図った。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
61,975	62,341	60,071		2,270

主な支出内訳

・中学校運営事業

教材用他消耗品費	36,838
校舎小破修繕料	2,739
教材校具備品等修繕料	5,177
校舎維持等委託料	1,206
体育器具の点検委託料	0
机等廃棄処分委託料	864
薬品処分委託料	495
教材用他備品購入費	6,391

事務事業評価シート

事務事業 No./名称	□サービス部門 教総-06 中学校運営事業 ■支援部門								
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	151 中学校運営事業							
主管課	教育総務課	関連課	教育指導課・各市立中学校						
分野名	学校教育								
目標 (目標値)	限られた予算額の範囲内で効率的な予算執行に努める								
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考				
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日				
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯					
	対 象 者	2,903人	2,863人	2,797人					
運営資源 状 況	決算値	60,071千円	59,718千円	66,401千円					
	(国・県)	0千円	0千円	0千円					
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円					
	(一般財源)	60,071千円	59,718千円	66,401千円					
	人員配置数	1.5人	1.5人	1.5人					
	人 件 費	14,056千円	14,388千円	14,170千円					
	協働の パートナー								
事務事業 運営経費	総事業費	74,127千円	74,106千円	80,571千円					
	市民1人当 りの経費	420円	421円	460円					
	対象者1人 当りの経費	25,535円	25,884円	28,806円					
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価									
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※				
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
学校経理担当者会議(予算 執行に係る連絡調整)	◎	目標値	4	4	4	4	4		
		実績値	4	4					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)									
団体名	平塚市	鎌倉市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市	相模原市	三浦市	
公立学校数(校)	15	9	19	12	13	3	37	4	
公立生徒数(人)	6,680	2,903	9,897	5,091	5,671	1,094	17,990	1,283	
公立学級数	188	86	271	146	161	32	515	37	
団体名	秦野市	厚木市	大和市	伊勢原市	海老名市	座間市	南足柄市	綾瀬市	
公立学校数(校)	9	13	9	4	6	6	4	5	
公立生徒数(人)	4,321	5,984	5,347	2,591	3,144	3,400	1,276	2,233	
公立学級数	121	170	147	71	90	92	39	62	

事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・学校備品が老朽化しており、計画的な更新が必要である。購入年次、利用状況等を考慮するとともに、緊急性を伴うものから優先順位をつけ、少ない予算額の中で、効率的な更新が求められた。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・各学校の当該年度の学校配当予算額の範囲内で予算科目間の増減調整を行い、各学校の運営実態にあわせた予算化を図っている。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・各学校が購入する物品のうち、全校に共通する品目(消耗品や清掃用品)については、教育委員会が入札して一括購入し、購入コストの低減化を図った。しかし、一部の備品については、納品時期が異なるなどの理由により学校ごとに単独で購入した。入札による一括購入により、さらに購入コストの低減化が図られる。購入方法について改めていきたい。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・学校予算の執行方法等について学校職員とともに見直し、限られた予算を運営実態にあわせて執行できるよう、入札などによるコストの低減化をさらに図りたい。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 無
	限られた予算額の範囲内で効率的な予算執行に努め、より安定した学校運営を支援したい。			
担当課長氏名:		教育総務課長 小嶋 秀一郎		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 無
	予算額の範囲が限られていることについては、今後も各学校の理解を得ながら、充実した学校運営を支援したい。			
担当部名	教育総務部	部長名	宮田 茂昭	